

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	法学部
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

- ・ 思考力、判断力、表現力、主体性、協働性
- ・ 面接での質問に対して適切に回答する能力
- ・ 志望動機や学習意欲についての説明能力

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入学試験【A 方式】
学部（学科/専攻）	経済学部
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

評価にあたっては、志望理由と入学後の学修に取り組むための日本語能力を重視した。特に、調査書・志望理由書の内容を踏まえて、本学入学後の学修意欲、質問の理解度（返答の的確性・表現の適切性を含む）等、総合的な観点から評価した。

中央大学 2026 年度特別入試 【解答・解答例】

学部・試験方式	2026 年度 商学部 外国人留学生入学試験【A 方式】
科目	日本語（小論文）

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

小論文なので解答例はない。

与えられた課題について、著者の意見をまとめた上で、自身の意見とその論拠を具体的な事例や自国との比較を通して論理的に述べる能力を測っている。日本語における総合的な力を評価するとともに、社会問題に対する関心も問う出題となっている。またそうした問題に対して解決に向けての提案を考察するための発想力・表現力も求めている。

評価のポイントは以下の通りである。

1. 日本語力（文法/語彙・表現、表記の正確さ）：40 点
2. 課題理解力・課題達成力（要求された内容の有無、妥当性）：30 点
3. 構成力（有効な論拠の使用、論理構成）：15 点
4. 読みやすさ・アイデア/内容の豊かさ・語彙表現の巧みさ：15 点

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

学部・試験方式	商学部 外国人留学生入学試験
科目	面接試験

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

本学商学部への入学を強く志望し、高い学修意欲と明確な目的意識をもって学修に取り組むことが期待できるかを確認する。

アドミッション・ポリシーを踏まえ、面接試験（日本語）における質疑応答を通じて、自らの考えを論理的に整理し、適切に表現する力を評価する。また、これまでの学習経験や日本で学ぶ目的意識の明確さを踏まえ、商学分野の学修に必要な思考力、主体性、コミュニケーション能力等の基礎的資質について総合的に確認する。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入学試験
学部（学科/専攻）	基幹理工学部・社会理工学部・先進理工学部
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

アドミッションポリシーにおける評価項目に基づき、面接を通じて「知識獲得力」、「問題解決力」、「コミュニケーション力」、「組織的行動能力」、「自己実現力」等を総合的に評価します。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（国文学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

専門分野に対する理解度、論理的な意見の開陳、質問に対する適切な応答（日本語能力を含む）の観点から評価する。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（英語文学文化専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

大学進学を志す者として身近な話題や知っておくべき話題について、自分の意見を明快にかつ論理的に述べているか等の視点から評価する。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（日本史学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

評価にあたっては、大学での学びに必要な日本語能力を十分に持っているか、日本史学・日本考古学を学ぶ意欲があるか、日本史に関する基礎的な知識を持っているか等の視点から評価する。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（東洋史学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

評価にあたっては、質疑に対する応答にもとづき、知識の量や確かさ、論理性、表現の適切性、日本語力等を評価する。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（西洋史学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

評価にあたっては、母国でも西洋でもない日本でなぜ西洋史学を学びたいのか、大学で具体的に何を学びたいのか、現時点までに何をどれくらい準備してきたのか等の質問に際して、適切な受け答えができるかどうか注目します。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（哲学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

学修に対する目的意識、主体性、思考力および人物的適性を適切に評価し、本学部のアドミッション・ポリシーと以下の本専攻が求める評価基準に適合する学生を選抜することを目的とする。

①学修目的および志望動機の妥当性

受験生が本専攻の教育、教育内容を理解したうえで、本専攻を志望するに至った動機と入学後の学修計画が明確で合理的であるかを評価する。

②主体性・多様な経験の活用

高等学校段階までの学習活動、課外活動その他の経験を通じて養われた主体性が、大学における学修にどのように活かされるかについて、明確に説明できているかを評価する。

③思考力・判断力・表現力

哲学を主たる学びとする学生に相応しく、自らの考えを論理的に適切に表現する力を有しているか。また一つのテーマを深く掘り下げた説明ができているかを評価する。

④学修態度および人物的適性

大学における学修を遂行するうえで必要な真摯さ、継続性、他の学生との協働性を備えているかを確認し、本専攻の教育環境に適合する人物であるかを総合的に判断する。

⑤書類審査との整合性

志望理由書、調査書、活動報告書等の提出書類の内容と面接における発言との整合性を確認し、書類上の評価の客観性および妥当性を確認する。

なお面接は、特定の知識や結論の正誤を問うものではなく、哲学という学問分野に対して、4年間を通じて粘り強く真摯に学ぼうとする姿勢や思考を確認することを主眼とし、複数の教員を面接官として公正かつ多面的・総合的に評価を行う。また受験生の多様な背景に配慮し、不利益が生じないよう適切な質問を行うことに努める。

中央大学 2026 年度外国人留学生入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（社会学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

評価にあたっては、文学部のアドミッション・ポリシーに則って、次の項目を重視している。

高等学校段階までの学習の内容を幅広くかつ十分に理解しているか。（知識・技能）

論理的にものごとを考える基礎力を備えているか。（思考力・判断力・表現力）

言語、文化を学ぶ基礎として日本語と外国語の表現力を備えているか。（思考力・判断力・表現力）

人間と社会に関心を持ち、自ら主体的に学ぼうとする態度と意欲を有しているか。（主体性・協働性）

以上

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（社会情報学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

面接の意図やねらいとしては、本専攻への志望動機を中心としながら、将来の展望や入学後の研究テーマ、それに関して、これまでの生活の中で取り組んできたことや興味関心などを尋ねつつ、これらの点について、自分の考えで主体的に回答できるかどうか、また円滑にコミュニケーションを遂行する力を有しているかどうか、といった点を確認することにある。とりわけ、外国人留学生入試においては、日本語で他の学生や教員と円滑にコミュニケーションを行うことが出来るかどうか、は重要である。

また評価のポイントとしては、事前の準備状況や熱意、主体性が重要である。事前準備と言っても、丸暗記してきただけの志望動機を読み上げるだけのような回答は望ましくなく、むしろ本人が主体的に熱意をもって、将来の進路や入学後の研究テーマを考えた上で、いかに本学を選択するに至ったかを説得的に語りうるかどうか、が重要である。加えて、なぜわざわざ日本に留学しなければならないのか、という点については、説得的な説明が求められよう。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（教育学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

個別面接を実施した。

多様な学生の入学を求める観点に基づき、本専攻への志望動機、大学生活で重点を置きたい学習内容やその他の活動等、卒業後の進路の見通し等に対する応答から、受験生の意欲や適性、資質能力を確認するのが面接の目的である。

やりとりの中で、「教育」に対する問題関心とそれに対する理解、論理的思考力や多角的な視点からの分析能力、プレゼンテーションおよびコミュニケーション能力について、基礎的力量が備わっているかを主要な評価の視点としている。

面接者の質問に対して、的確かつ論理的、具体的に応答できているか、積極的に理解してもらえるように応答しているかなどに着目して評価を行っている。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（心理学専攻）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

面接試験は、個人面接として実施し、心理学という学問への理解、入学後の学びを具体的にイメージできているか、また、その実施可能性について評価しました。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	文学部（学びのパスポートプログラム）
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

面接者が学びのパスポートを志願した理由や卒業後の進路などについて受験生に日本語で質問をし、それに対して受験生が日本語で回答するという形式の面接を通して、受験生の意欲の高さや日本語の運用能力を判断する。

中央大学 2026 年度特別入試 【解答・解答例】

学部・試験方式	総合政策学部・外国人留学生入試
科目	小論文

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

1. デジタル技術の発展によって、私たちが自分の文化を表現する方法は大きく変化し、人々のつながりや理解にさまざまな影響を与えている。この変化には、つながりを深めるポジティブな面と、誤解や分断を生むネガティブな面の両方がある。

まず、最も大きな変化は、Netflix や YouTube、TikTok などのデジタルプラットフォームが設けられたことであり、そこを拠点して国や地域を越えた文化交流が急速に進んでいる。私の母国では、Netflix や YouTube により、日本のアニメやマンガが人気を集めている。一方、私は日本に来てから、母国の伝統的な踊りや料理を紹介する動画を TikTok に投稿したところ、日本人の友人たちが興味を持ってくれた。このように、デジタルプラットフォームは異文化への理解と関心を広げる手助けとなる。

また、SNS は新しい創作の場となっている。私は Instagram で母国の詩を日本語に翻訳して投稿しており、そこで知り合った日本人の詩人と文化的な交流ができた。さらに、pixiv やニコニコ動画のようなサイトでは、絵や音楽といった言語に頼らない表現を通じて、国境を越えたつながりが生まれている。デジタル空間は、これまで発言の機会が少なかった人々にも、自分の文化や経験を発信する場を提供している。

しかし一方で、デジタル文化には問題点がある。たとえば、SNS では自分の関心や考えに近い投稿が表示されるため、異なる視点に触れる機会が少なくなる。私自身も日本の文化について調べていた際、似たような傾向の投稿が出てくることに気づいた。結果として、文化的多様性を理解するチャンスが奪われているおそれがある。

また SNS の短い文章では文化的な背景が伝わりにくく、誤解も起きやすい。私は日本語で親しみを込めてジョークを書いたところ、反日と誤解されて炎上してしまったことがある。文化の違いをよく理解せずに文脈を誤ると、真意がうまく伝わらない場合がある。

さらに、異文化間の問題ばかりでなく、同じ文化を共有しているはずの国民の間でも、デジタル文化の影響で二極化の傾向が顕著であり対立が深まる傾向にある。他には高齢者やネット環境が整っていない人々が、デジタル空間に入ることすらできず新しいコミュニケーションのツールやコンテンツから取り残されてしまう問題もある。

これらの課題に向き合うためには、まず各自がメディアリテラシーを高め、さまざまな情報や方法を批判的に見る力を持つことが必要だ。SNS を運営する企業にも、多様な文化や意見に触れられる工夫が求められる。そして何よりも大切なのは、実際に人と会って話し、体験を共有することである。私は日本の友人と一緒に母国の料理を作ったり、お互いの文化について語り合ったりする時

間を大事にしている。直接の交流を通じてこそ、デジタルでは伝わらない深い理解が生まれる。

結論として、デジタル空間において自分の文化や意見を紹介したり、異文化にふれたりすることは、相互理解のつながりを広げる可能性を持ちながらも、誤解や分断の危険も伴っている。したがって大切なのは、その利点と限界を正しく理解し、多様性を尊重し続ける姿勢である。真の理解を育むためには、オンラインと現実世界の両方での対話が必要だと考える。

2. 日本の田舎や小さな町では、若い人たちが都会に出ていき、お年寄りが増えるという問題がある。これにより、地域のお店が減り、バスなどの公共サービスも少なくなり、さらに人が減るといった悪い循環が起きている。この問題を解決するには、その地域ならではの特徴を生かした経済づくりと、今の生活スタイルに合った住みやすい環境が必要だ。

経済面での支援として大切なのは、地域の特産品を観光に結びつけるであろう。私の住む町では、農産物を単に売るだけでなく、「体験」を提供することで価値を高めている。地元の果物農園では、果物狩りとジャム作り体験を組み合わせたツアーが人気で、都会から多くの観光客が来ている。このような取り組みを広げるには、新しい商品開発やネット販売の支援、販売方法のアドバイスなどが役立つであろう。

また、在宅勤務が増えた今、都会の会社の小さな事務所を地方に作ることも有効となる。近くの市では、空き家を改装してオフィススペースを作り、IT企業の人たちが週の半分は田舎で、半分は都会で働く生活をしている。このような動きを広げるには、インターネットの環境整備、空き家の活用支援、税制上の優遇措置などを組み合わせていく必要がある。

社会面での支援としては、若い家族が引っ越してきやすい環境づくりが求められる。私の居住地域では、保育園を増やす、学校の放課後に子供を預かる場所を充実させる、家を買う時の補助金を出すなど、子育て家族への支援が増えている。また、病院や学校など、生活に必要な施設を整えることも欠かせない。

これらの支援と同時に、地域内でのつながりを強くするサポートが必要だ。お年寄りが増える中、従来の町内会だけではコミュニティ活動が続けることは難しい。若い人とお年寄りが一緒に参加できるイベントの開催、新しい地域活動を始める人々の育成、移住者と地元民の交流の場を作るなど、地域の状況に即したアイデアを実践すべきであろう。

さらに環境に優しい町づくりも大切だ。太陽光発電や水力発電など自然エネルギーを使うことは、地域の経済を助けるだけでなく、環境を大切にする若い世代を引きつける魅力にもなる。私の県では、小さな水力発電所と太陽光パネルで電気をつくり、地域で使うことで新しい仕事も生まれた。

これらの取り組みを成功させるには、地域の人々、役所、会社、ボランティア団体などが協力することが欠かせない。外からの助けだけに頼るのではなく、地域の人々自身が中心となって将来の計画を立て、行動することが重要だ。地方を活性化させるには、一時的に財政を出動するだけでは不十分であり、その地域ならではの特徴や人々の力を最大限に生かし、息の長い取り組みが必要だ。

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	外国人留学生入試
学部（学科/専攻）	総合政策学部
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

以下の点を評価のポイントとし、提出された書類や小論文試験を参考にして総合的に判断する。

- ・ 明確な志望理由・目的意識
- ・ 勉学への意欲
- ・ 日本語運用能力
- ・ 英語運用能力
- ・ 社会的関心度
- ・ 積極性、行動力

中央大学 2026 年度特別入試 【解答・解答例】

試験方式	外国人留学生入学試験【A方式】
学部（学科/専攻）	国際経営学部
科目	英語

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する解答・解答例には、別解がある場合があります。

【解答・解答例】

I.

(1)B (2)A (3)B (4)D (5)C (6)B (7)D (8)C (9)A (10)A

II.

Q1 (1)D (2)B (3)A (4)D (5)C

Q2 (1)T (2)T (3)F (4)T (5)F

III. Essay Writing

解答例：I agree that social media apps should show health-related warnings. A 2022 survey in Japan showed that more than 60% of teenagers use SNS for over three hours a day. I have also seen my younger cousin stay up late scrolling TikTok, and later she said it made her feel tired and lonely. Warnings could remind users to take a break and think about their health. Some people may ignore the message, but at least it gives them a chance to notice the risk. Like seatbelt signs in cars, small reminders can save lives. (94 words)

IV.

(1) 試訳：Sample translation: 現金がまだやり取りされる場所で、小さな寛容の行為を再び当たり前のこととして感じられるようにすることだ。

(2) 解答例：オーストラリアのドネーション・ダラーは、見た目は普通の1ドル硬貨だが、中央の緑色と刻印で人々に寄付を思い出させる。通常の買い物にも使えるが、本来は募金や支援に回すことが意図されている。流通を広げることで多くの人が手にし、小さな善意を広げる効果をねらう。アプリや手続き不要で子どもや学校、地域活動にも活用できるのが強みである。一方で、認知不足やキャッシュレス化、処理コストなど課題もある。(193字)

中央大学 2026 年度特別入試 【評価の視点】

試験方式	自己推薦入試、海外帰国生等特別入試、外国人留学生入試【A方式】、外国人留学生入試【B方式】、指定校推薦入試
学部（学科/専攻）	国際経営学部 国際経営学科
科目	面接

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

※公開する内容については、別解がある場合があります。

※①試験問題、②解答又は解答例、③出題の意図の要素を含むものとして「評価の視点」を公表します。

【評価の視点】

国際経営学部の「入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー）」で求める知識・能力・態度等を備えているかについて、口頭試問により評価する。